

資料・情報の収集・提供

第3期オーテピア高知図書館サービス計画骨子案

概要

- 一般図書は国内年間出版点数の5割以上、雑誌や新聞は2,000タイトル以上を目標として収集し、高知県の資料・情報拠点としての役割を果たします。
- 利用者からのリクエストに対して購入や他館からの取り寄せを行い、県民・市民の資料要求に応えます。
- 電子書籍やデータベース、デジタル資料などの電子媒体の充実を図ります。

特にサービスを活用いただきたい方(第3期サービス計画)

すべての県民・市民

サービス計画(第2期)前半R4~R6年度

■ 主な取組

- 利用者のニーズや課題解決に資する資料の継続的な収集・提供
- ブックリストの作成や企画展示、出前図書館等による資料の紹介、活用への働きかけ
- 連携機関や学校等への団体貸出による支援
- 電子書籍サービスへの児童生徒・教職員の一括登録の促進
- データベース活用講座の実施
- ビジネス関連などの資料を分館・分室へ一括で提供(コテピア)

■ 成果

- 利用者のニーズに沿った資料提供ができ、アンケート調査でも資料の品揃えに対して高い評価を得ている。
- 専門機関等からも、図書館が提供する資料の質・量に対して信頼が寄せられ、連携事業を進める基礎となっている。
- 電子書籍サービスは、ほぼすべての県立学校と、10市町村の学校で一括登録が完了した。

サービス指標

	現状(R6年度)	目標(R8年度)
リクエストの受付件数	3,307件	4,000件
電子図書館の閲覧回数	52,896回	10万回

サービスを取り巻く社会環境の変化・地域の課題(問題点)

- ・ 出版点数が減少傾向にあり、休廃刊する新聞・雑誌も増加している。
- ・ 行政資料を中心にデジタルでのみ作成・提供される資料・情報が増加している。
- ・ 高齢者を中心に、紙媒体しか利用できない人も依然多い。

図書館の課題(〔ア〕アンケート 〔中〕中間評価 〔意〕意見交換会)

- 約半数の人が電子書籍サービスを知らないという結果になっており、認知度が低い。〔ア〕
- 年間出版点数の5割の収集を目標としているが、4割程度に留まっている。今後、電子書籍の購入が増加した場合、さらに低下する可能性がある。
- 財政状況の悪化により、資料費の維持が難しくなりつつある。
- 収蔵スペースを確保するためには、適切な除籍や除籍資料の再利用の促進が必要である。

3期のポイント

- 地域課題の解決に資する資料・情報の収集・提供
- 多様な資料(紙・電子)の収集・提供
- 非来館型サービスの充実
- 資料の利用促進に向けた広報の強化

3期計画の取組

新 新規 拡 拡大

- 収集
 - ・ 年間出版点数の5割の収集を目標とする資料の購入
 - ・ 高知県の重点課題等に関連する資料の積極的な収集
 - ・ 電子書籍のコンテンツの充実
- 新 ○ 保存
 - ・ 高知県の資料センターとしての役割を果たすための資料収蔵スペースの確保
 - ・ 除籍資料の再利用の促進
 - ・ ボーン・デジタル資料の収集・提供方針の策定
- 拡 ○ 提供
 - ・ 企画展示や出前図書館等による資料の利用促進
 - ・ 連携機関や行政、学校等への団体貸出の促進
 - ・ デジタル・デバインドに配慮した資料提供
 - ・ 電子書籍サービスなどの非来館型サービスの利用促進
 - ・ 活用講座の実施等によるデータベースの利用促進
- 拡 ○ 広報
 - ・ データベースの利用促進に資する広報の強化
 - ・ 図書館内外での体験会の開催など、電子書籍サービスを紹介する機会の充実

概要

○高知県に關係する資料を網羅的に収集し、各方面の利用に供するとともに、資料を生かし、県民・市民、観光客、移住希望者等に向けて情報発信します。
○貴重資料をはじめとするニーズの高い資料のデジタル化を進め、ウェブ・サイトで公開します。

サービス計画（第2期）前半R4～R6年度

■ 主な取組

○高知県関係資料の積極的な収集と提供

○高知ならではの資料(よさこい関係資料)の収集と提供

○高知県関係のレファレンスへの対応

○貴重資料のデジタル化とウェブ公開、国立国会図書館へのデータ提供

○展示室での企画展示の実施

■ 主な取組

○行政資料など、図書・雑誌以外の資料も含め収集が進み、利用者に対してより多くの情報を提供できるようになった。

○団体や個人利用者の調査研究や課題解決に貢献できた。

○デジタル化した貴重資料の情報をNDLサーチから検索可能になったことで、県外のマスコミや研究者等への貴重資料画像データの提供数が増加し、館のPRにもつながった。

○貴重資料保存に対する理解が深まった。

サービス指標

高知県レファレンス件数 事項所蔵	現状(R6年度)	目標(R8年度)
	830件	4,400件
	1,156件	

サービスを取り巻く社会環境の変化・地域の課題(問題点)

・行政資料のボーン・デジタル化が急速に進んでいる。
・ボーン・デジタル資料は、ウェブサイト上での短期間の公開やリンク切れの発生、資料の発行状況の把握が困難等の課題があり、従来の収集・管理体制では、資料を将来にわたって網羅的に収集することが難しい。

図書館の課題（[ア]アンケート [中]中間評価 [意]意見交換会）

- 貴重資料の画像データの提供について、「知らない」割合が高く、県民・市民へのPRが十分ではない。[ア]
- レファレンス事例の公開やパスファインダーの作成が進んでおらず、レファレンスの成果の発信・活用が十分にできていない。[中]
- ボーン・デジタル資料の収集・提供の方針等が決まっていない。

特にサービスを活用いただきたい方(第3期サービス計画)

・高知県のことを調べている人 ・高知県に興味がある人
・県内の各種団体・機関

3期のポイント

- 積極的な広報による高知県関係資料の利用促進
- 専門性の高いレファレンスサービスの提供、司書の専門性の向上
- デジタル化による情報へのアクセス性の向上
- 資料の網羅的な収集と保存、多角的な提供

3期計画の取組

新 新規 拡 拡大

- 拡 ○ 収集
- ・行政資料を含む高知県に関する資料の網羅的な収集によるコレクションの構築
- ・ボーン・デジタル資料の収集・提供方針の策定(再掲)
- 拡 ○ 保存
- ・古記録・古文書類のデジタル化の促進
- ・明治以降に刊行され、当館にしか所蔵のない資料のデジタル化の開始
- 拡 ○ 提供
- ・デジタル資料を提供するプラットフォームの多角的な運営方法に関する研究
- レファレンス
- ・レファレンス事例の公開やパスファインダーの作成など、利用者向けレファレンス・ツールの作成と提供
- ・歴史資料や郷土史等に関する司書の専門性の向上
- 新 ○ 広報
- ・SNS等を活用した積極的な情報発信
- ・レファレンス事例やデジタル資料の紹介など、県外在住者も想定した情報発信の強化
- 連携
- ・類縁機関・団体との情報共有の強化とレファレンス等での協力
- ・イベント等の実施による中心市街地活性化への寄与

ビジネス支援サービス

第3期オーテピア高知図書館サービス計画骨子案

概要

- 経済や経営、就業、起業、転職等、ビジネス・産業分野の課題解決に役立つ図書、新聞、雑誌、データベース等の資料・情報を提供します。
- ビジネス支援デスクを設置し、担当司書が情報収集や調べものをサポートします。
- ビジネスに役立つ図書館活用講座や専門機関と連携した各種相談会等を開催します。

特にサービスを活用いただきたい方(第3期サービス計画)

- 仕事に関する課題を解決しようとする人
- ・就業中の人
 - ・就職、転職希望者
 - ・起業や経営改善を検討中の人
 - ・移住希望者
 - ・中心商店街関係者
 - ・ビジネスに関心のある人
 - ・上記の活動を支援する機関・団体

サービス計画(第2期) 前半R4~R6年度

■ 主な取組

- ニーズに対応した最新の資料・情報の収集・提供
- ブックリスト・パスファインダーの作成・改訂
- 専門機関等との連携展示や科学館常設展示コーナーの設置
- 図書館活用講座の実施
- 関係機関と連携した相談会の開催や出前図書館の実施
- 分館・分室へのビジネス分野の図書の提供(コテピア)

■ 成果

- 活用講座の受講者等の継続的なレファレンスやデータベースの利用があり、開業や商品開発の支援につながった。
- 専門機関と共催で各種相談会を開催し、利用者の就労・就農を支援した。
- 専門機関との連携が深まった結果、機関の広報誌に当館の紹介記事が掲載され、サービスの広報や利用増につながった。
- コテピアでの資料提供により、地域の利用者がより多くの資料に触れる機会を提供できた。

サービス指標

ビジネス・農業・産業支援分野でのレファレンス件数	現状(R6年度) 1,502件	目標(R8年度) 2,400件
--------------------------	--------------------	--------------------

サービスを取り巻く社会環境の変化・地域の課題(問題点)

- ・少子化や若者の県外流出により、人手不足や市場の縮小が深刻になっている。
- ・県内企業への就職支援や女性の活躍促進、外国人材の受入れ、DX推進等の対策が急務になっている。
- ・中心市街地の賑わい不足に加え、コロナ禍以降、来街者数が十分に回復していない。[意]

図書館の課題([ア]アンケート [中]中間評価 [意]意見交換会)

- 専門機関が持つ広報手段の把握や連携不足があり、広報がターゲットに十分に届いていない。関係機関との連携を強化し、利用者に刺さるPR方法を考える必要がある。[意][中]
- 生成AIの普及により、より信頼性の高い情報へのニーズが高まっている。ネットでは入手困難な専門的かつ最新の情報(図書・雑誌・新聞・データベース等)の収集・提供や、レファレンスサービスの周知を強化していく必要がある。[意]

3期のポイント

- 専門性の高い資料・情報の整備と、レファレンスや講座による活用支援
- 専門機関との連携強化による多角的な情報提供と図書館利用の促進
- 利用者ニーズに即した戦略的な広報によるサービスの周知
- 司書の専門性向上による利用者の情報リテラシー向上への支援

3期計画の取組

新 新規 拡 拡大

- 拡 ○資料
 - ・専門図書・雑誌・新聞・デジタル資料(電子書籍・データベース等)の収集・提供
 - ・生成AIをはじめとするデジタル技術に関する資料・情報の重点的な収集
 - ・分館・分室でのテーマ展示(コテピア)の継続による、資料の利用圏域の拡大
- 拡 ○レファレンス
 - ・レファレンス利用者へのアフター・フォローの強化によるレファレンスの質の改善やリピーター確保、紹介による新規開拓の促進
 - ・パスファインダーなど、利用者向けレファレンス・ツールの提供
 - ・専門機関とのネットワークを生かしたレフェラルサービスの拡充
- 情報リテラシー
 - ・対象別のデータベース活用講座の実施による利用促進
 - ・非来館者等への活用講座動画の提供
- 広報
 - ・レファレンス事例を活用した広報による、図書館サービスの有用性のPR
 - ・専門機関と連携した広報による、新たな利用者の開拓
- 拡 ○連携
 - ・専門機関と連携した相談会の開催や企画展示等の実施
 - ・中心商店街との関係の強化、図書館活用に向けた提案・働きかけの実施
 - ・「まちゼミ」など、商店街のイベントへの積極的な参加による中心市街地活性化への寄与

概要

- 健康・福祉・防災等の分野の課題解決につながる資料・情報を収集し、専門機関等とも連携して提供・発信します。
- 健康安心防災情報デスクを設置し、担当司書が情報収集や調べものをサポートします。
- 課題解決の手段の一つとして、図書館の活用方法を積極的にPRします。

サービス計画（第2期）前半R4～R6年度

■ 主な取組

- 「ひきこもりピア相談会」「がん相談会」の定例開催
- 行政機関・専門機関と連携した展示活動やイベント、セミナー等の実施
- 積極的なアウトリーチ・サービスの実施
- ニーズに対応した資料収集、ブックリスト・パスファインダーの作成・改訂
- ブックリストとパスファインダーの相互参照を可能にするなど、提供方法の改善

■ 成果

- 図書館の敷居の低さを参加につなげ、支援を必要とする利用者と相談窓口をつなぐことができた。
- 連携機関と協働することで、利用者には必要な情報の提供、連携機関には広報への支援ができた。
- 県民・市民・行政機関等に対して、図書館資料の活用を継続的に周知できた。
- 積極的なPRの結果、専門機関等から継続的な連携の依頼が寄せられるようになった。

サービス指標

健康・安心・防災情報分野での レファレンス件数	現状(R6年度) 1,255件	目標(R8年度) 2,000件
----------------------------	--------------------	--------------------

サービスを取り巻く社会環境の変化・地域の課題(問題点)

- ・高知県の高齢化率は全国平均よりも高く、健康・福祉分野の課題を多く抱えている。
- ・出生数の減少及び人口流出により、地域活動の担い手不足が顕著になっている。
- ・災害の激甚化・頻発化により、県民・市民の防災への関心が高まっている。
- ・高知ユナイテッドSCのJ3昇格などにより、スポーツ分野への関心が高まっている。
- ・生成AIサービスの急速な浸透により、特に医療・健康分野の情報選別が難しくなっている。

図書館の課題（[ア]アンケート [中]中間評価 [意]意見交換会）

- 医療・医療分野は利用者のセルフ・レファレンスでは対応しきれない部分が多いため、レファレンス・サービスによる支援とサービスのさらなる周知が必要。[中]
- 各機関が持つ専門的な情報がターゲットに十分に届いていない。健康・安心・防災スペースに馴染みのない来館者も多い。[意]
- 連携機関と対等で良好な協力関係を維持するためには、相互理解が重要。[中]

3期のポイント

- 信頼性・専門性の高い資料・情報の収集とレファレンスサービスの提供
- 専門機関等との連携による、県民・市民への情報提供の強化
- 利用者ニーズに即した戦略的な広報によるサービスの周知
- 利用者の情報リテラシー向上への支援及び司書の専門性向上

3期計画の取組

新 新規 拡 拡大

- 資料
 - ・信頼性の高い医療・健康情報の継続的な収集・提供
 - ・防災・スポーツ分野の資料収集・提供の強化
- レファレンス
 - ・窓口で相談しづらい内容を利用者自身が調べるためのレファレンス・ツールの整備
 - ・専門機関や相談窓口に関する情報の提供・レフェラルサービスの強化
- 情報リテラシー
 - ・情報の評価に役立つ図書館活用講座の実施
 - ・学生等を対象にしたデータベース活用講座の継続的な実施
- 広報
 - ・来館者に対する「健康・安心・防災スペース」やサービス内容のPRの強化
 - ・図書館未利用者に対する広報の強化
- 連携
 - ・専門機関との連携の継続、連携関係にある専門機関のハブ的機能の強化
 - ・各サービスを横断した取組による情報提供の強化
 - ・県庁・市役所各課の施策や取組に関する情報発信への協力

行政支援サービス

第3期オーテピア高知図書館サービス計画骨子案

概要

- 高知県庁と高知市役所の職員が、行政運営や政策立案を行う際の情報収集・調べものを司書がサポートします。
- 数多くの県民・市民が来館する強みを生かし、県庁・市役所の各課や機関と連携した講座・イベントの実施やパンフレット等の配布を行い、行政の政策・施策の推進を支援します。

特にサービスを活用いただきたい方(第3期サービス計画)

高知県庁・高知市役所の職員、高知市立学校教職員

サービス計画（第2期）前半R4～R6年度

■ 主な取組

- 新採職員研修や政策研究共同研修、部局研修等でのサービス説明、市役所出前図書館の実施
- 高知市立学校教職員を対象にした団体貸出や図書館活用講座の実施
- 各課等との連携による図書館の活用事例まんの作成(6種)
- 県市広報紙の特集記事に合わせた関連本の常設展示

■ 成果

- 政策立案の情報収集に図書館資料が役立つことを広報したことで、行政職員の業務における図書館活用の増加につながった。
- 学校教職員の業務や授業研究に役立つ資料を提供することができたほか、図書館の活用方法を分かりやすく具体的に伝えることができた。
- 各種行政機関と連携した取組により、県市施策の推進を支援できている。

サービス指標

図書館と連携した課題解決支援のための図書館サービス説明等の実施	現状(R7年度) 28回	目標(R8年度) 56回
---------------------------------	-----------------	-----------------

サービスを取り巻く社会環境の変化・地域の課題(問題点)

- ・ 少子高齢化による人口減少、財政状況の悪化、自然災害の激甚化及び頻発化、多様化する行政ニーズによる職員1人当たり業務量増加等に対応するため、事務事業の見直しや、DX化が推進されている。
- ・ 生成AIサービスの急速な浸透により、情報の正確性が担保されにくくなってきている。

図書館の課題（[ア]アンケート [中]中間評価 [意]意見交換会）

- 図書館活用講座の講師派遣について「知らない」との回答が増加している。[ア、中]
- 連携で深まった職員間のつながりが十分に生かされていない。[中]
- 行政職員のニーズの把握ができていない。
- 高知市立学校教職員向けの団体貸出サービスが十分に認知されていない。
- レファレンスなどの図書館サービスの周知が不十分。[意]

3期のポイント

- 専門性の高いレファレンスサービスの提供・活用
- 行政職員のニーズ把握、個別最適なサービスの提案
- デジタル化も踏まえた効果的な広報の実施
- 行政機関との連携の強化・発展(関係機関をつなぐ役割の推進)

3期計画の取組

新 新規 拡 拡大

- **拡** レファレンス
 - ・ 司書の専門性と多様なツールを活用した質の高いレファレンスの提供
 - ・ 回答後のフォロー強化などによるサービスの質の向上
 - ・ 業務に活用できるブックリストやパスファインダーの作成・提供
- **拡** アウトリーチ
 - ・ ヒアリングや意見交換の実施によるニーズ把握の強化
 - ・ 庁内や出先機関における出前図書館の実施
- **拡** 広報
 - ・ デジタル・ツールなど、新たな広報手段の積極的な活用
 - ・ 庁内メールマガジンや行政掲示板の内容の刷新
 - ・ 高知市立小中学校教職員向けの団体貸出サービスについてのPRの強化
 - ・ ブックリストの送付など、プッシュ型の広報の実施
- **拡** 連携
 - ・ 各課や出先機関をつなぐハブ機能の強化
 - ・ 各課が実施する研修会等での出前図書館・図書館活用講座の実施

概要

○資料や情報を実際に参照することができる図書館のメリットと司書の専門性を生かし、情報社会において求められる情報リテラシーの習得や向上を支援します。

サービス計画（第2期）前半R4～R6年度

■ 主な取組

- 利用者の習熟度やテーマに応じた情報リテラシー講座の実施
- 学校や団体を対象にした図書館活用講座の実施
- 各種パスファインダーやブックリストの作成・提供
- WEB-OPACでの蔵書検索方法等を説明する動画の公開
- 各サービスの連携事業等での情報リテラシー向上支援の取組の実施

■ 成果

- 情報リテラシー講座を習熟度別とすることで、きめ細かくより丁寧な説明ができ、参加者の理解度・満足度の向上につながった。新たな講座テーマの要望・実現にもつながった。
- 講座の実施により、データベースの利用件数が増加傾向にある。
- 蔵書検索の動画公開は、一般の利用者だけでなく、市町村立図書館等の職員への情報提供にもつながった。

サービス指標

	現状(R6年度)	目標(R8年度)
パスファインダーの提供数	38種	65種
データベースの利用件数	1,192件	5,000件

サービスを取り巻く社会環境の変化・地域の課題(問題点)

- ・生成AIが急速に進化・普及しており、それらを効果的に使うスキルや情報の真偽を見極める力が、より重要となってきた。
- ・デジタル機器の操作に不慣れな高齢者等が情報弱者となる可能性が高まっている。

図書館の課題（[ア]アンケート [中]中間評価 [意]意見交換会）

- データベースの提供について「知っているが使ったことがない」割合が高く、認知度は向上しつつあるものの、積極的な活用までには至っていない。[ア]
- 作成したパスファインダーがどのようにどの程度活用されているかの評価・分析が不十分である。[中]
- 生成AIの業務やサービスへの活用についての検討が進んでいない。[中]

3期のポイント

- 多様な情報資源を生かして情報リテラシーの向上支援の実施
- デジタル媒体・アナログ媒体双方への対応
- 利用者のデジタル・スキルの段階やニーズに応じた講座の実施

3期計画の取組

新 新規 拡 拡大

- 講座
 - ・ 習熟度別の情報リテラシー講座の継続的な実施と内容の充実
 - ・ 生成AIへの理解や活用を支援する講座の実施
 - ・ データベースの具体的な活用方法を紹介する講座の実施
 - ・ 講座の動画化など、非来館者に対する情報提供の強化
- レファレンス
 - ・ パスファインダーなど、利用者の調べもの・情報収集を支援するツールの作成・提供
- 連携
 - ・ 各サービスが実施する連携事業での情報リテラシー講座等の実施
- 広報
 - ・ SNSや動画、紙媒体など、対象者や目的に応じた情報発信の強化

概要

- 子どもたちの心や成長に寄り添い、豊かな読書経験を培う手助けをするとともに、生涯学習の基礎となる情報リテラシーの向上を図ります。
- 子育てに関わる大人や子どもの読書活動を支える大人に対する支援を行います。

高知県内の0歳～小学生とその関係者
0歳～小学生の子ども、保護者、保育園・幼稚園・小学校等の職員、
子どもの読書活動に関わる団体・個人
児童書を必要とする中高生・大人・外国人・障害のある人とその関係者

サービス計画（第2期）前半R4～R6年度

- 主な取組

 - 子ども向けのおはなし会や大人に対する講座・勉強会の定期実施
 - 小グループによる図書館見学の実施
 - 学校現場に役立つ図書館活用事例まんの作成
 - 子育て応援コーナーの拡充
 - 読み継がれた本や外国語の児童書の排架の見直し
 - 新たな「こども読書週間事業」(読書マラソン)の実施
- 成果

 - 小グループでの図書館見学は説明が行き届きやすく好評で、見学後の図書館利用にもつながった。
 - 学校現場の生の声を生かして活用事例まんの作成・提供したことで、図書館のPRにつながったほか、連携のきっかけづくりにもなった。
 - コーナーの拡充や排架の見直しにより、利用者が本を探しやすくなり、利便性が向上した。

サービス指標

こどもカウンターでの レファレンス受付件数	現状(R6年度) 2,870回	目標(R8年度) 7,900回
--------------------------	--------------------	--------------------

サービスを取り巻く社会環境の変化・地域の課題(問題点)

- ・子どもや子育てを取り巻く環境の変化による子育ての孤立感・負担感の増加や、家庭や地域の子育て力・教育力の低下が懸念されている。
- ・本県の不登校の児童生徒数は増加傾向にあり、不登校の出現率は全国平均よりも高くなっている。
- ・教員の多忙が社会問題となり、教員の採用辞退率の高さも課題となっている。
- ・子どもの不読率の上昇傾向が続いている。

図書館の課題（[ア]アンケート [中]中間評価 [意]意見交換会）

- 子どもたちの情報リテラシー向上を図る必要がある。[中]
- 学校図書館支援員だけでなく、教職員にも図書館サービスの活用を促す必要がある。[中]
- 「探究的な学習を支える情報源」と「それを使いこなすための支援(特にブックリスト)」が期待されている。[ア]
- 学校図書館の資料選定への支援が期待されている一方、選定支援コーナーの利用頻度は少なく、十分に活用されていない。[ア・中]

3期のポイント

- 子どもの情報リテラシー向上のための取組の実施
- 学校・教職員との連携の強化
- 児童書を必要とする人の支援資するため、館内連携の強化
- 選定支援コーナーの資料を活用した研修の実施
- 子どもに関わる大人(教員・ボランティア・子育て世帯など)への支援

3期計画の取組

新 新規 拡 拡大

- 資料の収集・提供
 - ・子どもたちの探究的な学習を支援する資料の収集・提供
 - ・電子書籍のコンテンツの充実と活用に向けた働きかけの強化
 - ・子育てに関連する資料の積極的な収集・提供
- 情報リテラシー
 - ・園や学校で活用できるブックリストとパスファインダーの作成・提供
 - ・図書館見学等の機会を活用した図書館の使い方・情報の調べ方の紹介
 - ・情報リテラシー向上を目的としたイベントの実施
- 連携
 - ・図書館見学の受入れや団体貸出等による学校との関係の強化
 - ・教員向けの図書館活用講座の実施
 - ・多文化サービスやバリアフリーサービスと連携した児童書活用の促進
- 児童書の選定支援
 - ・学校図書館・市町村立図書館等における選書や除籍の参考となる研修会の開催
- 子育て応援
 - ・子育て中の保護者や、子育て支援に関心のある人を対象にした講演会の開催
- 行事
 - ・子どもと本を結ぶイベントや講座等の継続的な実施

ティーンズ・サービス

第3期オーテピア高知図書館サービス計画骨子案

概要

○ティーンズ世代の多様な興味・関心に応える本や、学習内容を深めることのできる本等を提供します。
○イベント・企画展示の実施やPR活動等により、図書館利用のきっかけづくりと読書機会の創出に取り組みます。

特にサービスを活用いただきたい方(第3期サービス計画)

高知県内在住の13歳～18歳の中学生、高校生等

サービス計画(第2期)前半R4～R6年度

■ 主な取組

○「ティーンズ部」自主企画のリレー小説の実施
○「高校生ビジネスプラン・グランプリ」プラン作成講座や、全国高等学校ビブリオバトル高知県大会の開催
○高校訪問によるサービス説明の実施
○図書館見学や図書館活用講座の実施
○関係機関へのサービス説明や連携展示などの実施
○ブックリストやパスファインダーの作成

■ 成果

○リレー小説の企画により、ティーンズ部への新規入部者が増加した。
○探究科や専科を持つ学校を中心に、図書館活用講座の実施件数が増加しており、内容も評価されている。
○高知市教育支援センターとの協力関係が深まったことで、オーテピアでの不登校相談会の開催につながった。

サービス指標

ティーンズからの投稿件数	現状(R6年度) 14件	目標(R8年度) 50件
--------------	-----------------	-----------------

サービスを取り巻く社会環境の変化・地域の課題(問題点)

・少子化により、サービス対象であるティーンズ世代が年々減少している。
・SNSや生成AIの普及が急速に進んでおり、中高生のICTリテラシーの必要性・重要性が高まっている。
・中高生の不読率が年々上昇している。

図書館の課題(〔ア〕アンケート 〔中〕中間評価 〔意〕意見交換会)

○ティーンズの参加意欲を引き出し、ティーンズ部活動の活性化につながる魅力的な企画が不足している。〔中〕
○来館する中高生は多いものの、図書・情報の利用に結び付ける取組や情報発信が不十分である。〔中〕

3期のポイント

○デジタル社会に対応した読書・情報環境の提供
○情報リテラシーの向上を支援する取組の強化
○学校図書館への協力体制の強化
○ティーンズの読書への関心を高める取組の推進

3期計画の取組

新 新規 拡 拡大

○資料
・ティーンズに役立つ資料・情報の充実
・紙資料と電子書籍を関連付けた提供

○情報リテラシー
・ブックリストやパスファインダーの作成・改訂
・図書館活用講座の継続的な実施

○連携
・教職員を対象にした図書館活用講座の実施
・教職員の業務に必要な資料の収集・提供、レファレンスへの協力
・中学校・高校と連携した企画展示等の継続的な実施
・相談会の開催や企画展示等による各種支援機関等との連携関係の強化

○展示
・ティーンズ世代に知ってもらいたいテーマや課題解決に役立つ資料の展示

○普及活動
・ティーンズと図書館をつなぐイベント等のコンテンツの充実
・ビブリオバトルなどのイベントの継続的な実施

○広報
・SNSの活用など、ティーンズの情報収集行動に合わせた広報の強化

概要

- 県内の在留外国人が日本語を学習するための資料のほか、地域で生活するためのさまざまな情報や知識を、外国語ややさしい日本語で提供します。
- 県民・市民が異文化を理解するきっかけとなる資料・情報を提供します。

サービス計画（第2期）前半R4～R6年度

■ 主な取組

- 国際交流員の協力による選書や、多言語版おすすめ本アンケートの設置
- 『高知で「くらす」×「はたらく」』展示の実施
- 外国人向けの図書館ツアーや図書館活用講座の実施
- 外国人向けの図書館活用事例まんが等のPRツールの作成
- 多文化共生ワールドツアーなど、多文化理解につながるイベントの主催・共催
- 市町村立図書館への関連図書セットの提供

■ 成果

- 利用者のニーズを踏まえた外国語資料の収集が進んだ。
- 外国人や支援者向けの本を集約して常設展示することで、利便性が向上した。
- 外国人の利用登録や利用が増加した。
- 県民・市民が多文化共生社会への理解を深める機会を提供できた。
- 「高知県外国人材受入・活躍推進プラン」への参画により、外国人が暮らしやすい環境づくりに寄与することができた。

サービス指標

ブックリストやパスファインダーの提供数	現状(R6年度) 26件	目標(R8年度) 31件
---------------------	-----------------	-----------------

サービスを取り巻く社会環境の変化・地域の課題(問題点)

- ・ 外国人材の受入拡大に伴い、県内在留外国人数は増加しており、出身国も多様化している。在留目的や県内での生活環境、母国の習慣等の背景も大きく異なっているが、相互理解や交流の機会が十分ではない。
- ・ 居住地域は県全域であり、市町村立図書館等も巻き込んだ県全体で受入れ体制が整っていない。

図書館の課題（[ア]アンケート [中]中間評価 [意]意見交換会）

- 県の受入強化対象国やニーズのある言語の資料、日本語学習用資料の収集が不十分。[中]
- 支援者や、外国にルーツがある子ども・親に対するサポートなど、利用者に応じた支援や対象者への直接的なアプローチが弱い。[中]
- 図書館未利用者のうち半数がオーテピア高知図書館を知らないと回答するなど、図書館サービスの周知が十分でない。[ア]

- 多様な言語や生活背景に対応した情報提供の強化
- 在留外国人や支援者に届く、伝わる広報の実施
- 専門機関や市町村立図書館等との連携の強化

3期計画の取組

新 新規 拡 拡大

- 資料
 - ・ 日本での生活や仕事に関する資料の収集・提供
 - ・ 外国人材の受入れに役立つ資料の収集・提供
 - ・ 県内在留者数が多い言語の資料の収集・提供
 - ・ 暮らしのルールや防災などの生活情報の積極的な提供
- 情報リテラシー
 - ・ 外国人の情報活用をサポートする取組の実施
 - ・ パスファインダーの作成や、やさしい日本語による館内ツアー、オンライン講座等の実施
- 広報
 - ・ 人的ネットワークや多様な媒体の活用による効果的・継続的な広報の実施
 - ・ ウェブ・サイトや広報物・掲示物等へのやさしい日本語の活用
 - ・ 広報物の配置場所の拡大
- 連携
 - ・ 国際交流団体や外国人支援機関等との連携の継続・強化
 - ・ 市町村立図書館等との協働
 - ・ 支援団体等を通じた外国人コミュニティとの関係の構築
- 普及活動
 - ・ 外国語のおはなし会や多文化理解講座などの継続的な実施
 - ・ イベントへの外国人の参加を促進する取組の実施

概要

○オーテピア高知声と点字の図書館と連携し、多様な資料やコミュニケーション手段により、図書館利用に障害のある人に配慮したサービスを提供します。
○図書館利用に障害のある人やその支援者に対し、サービスの積極的なPRを行います。

サービス計画（第2期）前半R4～R6年度

■ 主な取組

○ 多様なバリアフリー資料の収集、イベントの実施
○ 非来館での音訳サービスの拡充
○ 音訳ボランティアの研修会の開催
○ 関係機関へのサービス説明や出前図書館の実施
○ サービス紹介(宅配・バリアフリー機器等)や手話付き利用案内・読み聞かせ動画の作成・配信
○ 電子雑誌閲覧サービスの提供(現在は終了)

■ 成果

○ 布絵本などの常設展示や企画展示、動画の配信を行うことで、多くの利用者にサービスやバリアフリー資料について紹介することができた。
○ 障害のある人・ない人が共に参加できるイベントを実施することで、広く障害への理解促進に寄与することができた。
○ 支援者や関係機関等へのサービス紹介をきっかけとして、宅配サービスの利用申込みにつながる事例が増えている。

サービス指標

	現状(R6年度)	目標(R8年度)
宅配サービスの利用件数	48件	60件
対面音訳サービスの利用件数	1,000件	1,200件

サービスを取り巻く社会環境の変化・地域の課題(問題点)

・高知県の高齢化率は全国平均よりも高く、読書が困難なことで情報弱者となる人が増加する可能性が高まっている(「高知県読書バリアフリー計画」では、読書が困難な県民は数万人規模で存在と想定。)
・市町村立図書館等におけるバリアフリーサービスの実施率が低い。
・図書館がサービス対象者の情報を把握することが難しい。

図書館の課題（[ア]アンケート [中]中間評価 [意]意見交換会）

○第1期と比べてサービスの認知度は10%以上上昇したものの、回答者の半数以上がサービスを知らないと回答している。[ア]
○サービス対象者の支援者や関係機関等にもサービスの情報が十分に届いていない。[中]

特にサービスを活用いただきたい方(第3期サービス計画)

- 図書館利用に障害のあるすべての県民・市民、その支援をする人
- ・寝たきりや障害により本が持てない人・音声での意思疎通が困難な人
・障害などで文字を読むことが難しい人・障害などで図書館へ行くことが難しい人
・小さい字が読めない人

3期のポイント

- 非来館サービスの拡充
○ 情報発信力の強化、戦略的な広報によるサービスの周知・普及
○ 専門機関・支援団体・市町村立図書館等との連携の強化

3期計画の取組

新 新規 拡 拡大

- 資料
・バリアフリー資料の重点的な収集
・読み上げ機能付きの電子書籍など、アクセシブルな図書の充実
- 各サービス
・利用者のニーズに応じた非来館サービスの充実
- 環境整備
・ユニバーサル・デザインの考えに沿った掲示物・配布物の作成
・デジタル・デバйдに配慮した情報提供の実施
- 広報
・バリアフリーの視点を取り入れた広報の徹底
・対象者に合わせたアプローチの実施
・SNS等のデジタル媒体での効果的な広報の実施
・専門機関・団体に対する広報の強化
- 連携
・関係機関・団体へのヒアリングやサービス説明、意見交換によるニーズの把握
・市町村立図書館等への提案や職員研修など、県内全域でのサービス実施に向けた支援
・特別支援学校等との連携の強化

市町村立図書館等への支援

第3期オーテピア高知図書館サービス計画骨子案

概要

- 協力貸出等の物的支援や市町村職員を対象とした研修事業等の人的支援により、県全体の図書館サービスの充実と職員のスキル向上に努めます。
- 東部・中部・西部の各ブロックの担当職員を置き、課題解決支援サービスのノウハウ等の共有など、各市町村の状況等に応じた支援を行います。

サービス計画（第2期）前半R4～R6年度

■ 主な取組

- 地域課題に対応した取組(多文化サービスやバリアフリーサービス等)の創出に向けた働きかけ、協力貸出用資料の収集・提供(具体的な活用の提案を含む)
- 県生涯学習課による図書館振興と連動しての市町村の図書館所管行政に対する働きかけの実施
- 市町村立図書館等の課題に応じた研修機会の提供

■ 成果

- 多文化サービス、バリアフリーサービス、教育支援センターへの資料提供など、多様な主体と連携することで、市町村における図書館活動の幅が広がった。
- 県生涯学習課との定期的な情報共有や同行訪問により、新図書館整備中の自治体等に対して、踏み込んだ働きかけを行うことができた。
- 内容の充実や研修方法の改善(動画の活用)により、幅広い研修機会を提供することができた。

サービス指標

協力貸出点数	現状(R6年度) 41,326点	目標(R8年度) 40,000件
--------	---------------------	---------------------

サービスを取り巻く社会環境の変化・地域の課題(問題点)

- ・ 急激な人口減少や公共施設マネジメントなど、図書館を取り巻く環境は厳しさを増している。図書館を政策的に生かす取組や、地域を支える図書館司書の専門性の向上が十分でなく、自立的・継続的な運営が難しくなりつつある。
- ・ 県内市町村では新たな図書館の建設・開館が続いている。

図書館の課題（[ア]アンケート [中]中間評価 [意]意見交換会）

- 市町村の図書館サービス活性化に向けては、さらに踏み込んだ個別的な支援が必要。[中]
- 県内の読書・情報環境の改善のためには、図書館を整備中の市町村だけでなく、未設置自治体への働きかけを強化する必要がある。[中]
- ニーズが高い基礎レベルの研修を中心に、研修の内容・方法をアップデートする必要がある。[中]

特にサービスを活用いただきたい方(第3期サービス計画)

- ・ 県内市町村立図書館・図書館未設置町村の図書室及びその職員
- ・ 市町村立図書館・図書館未設置町村図書室の所管課職員
- ・ 新たな図書館の整備を予定している市町村の関係職員

3期のポイント

- 市町村立図書館等の実態に応じた支援の充実
- 県や市町村の図書館所管行政等との連携強化
- 新館整備の局面にある市町村への働きかけの強化
- 人口減少社会を支える司書の専門性の可視化と研修機会の提供

3期計画の取組

新 新規 拡 拡大

- 訪問等による支援
 - ・ 各図書館の実態に応じた個別的な支援の実施
 - ・ 円滑な図書館運営の実現のための、現場職員と所管課職員をつなぐ取組の実施
- 情報提供
 - ・ 課題解決支援分野等の関係団体と図書館との協働を促す情報提供の実施
- 研修
 - ・ 小規模図書館・図書室の交流会など、各図書館等の実態やニーズに対応した研修の実施
 - ・ 司書の専門性向上に向けた研修の実施
 - ・ 職員の業務内容や経歴、ニーズに応じた研修の実施
 - ・ 動画やオンラインなど、場所を選ばずに参加できる研修機会の提供
- 課題解決支援サービス実施への協力
 - ・ 多文化サービスやバリアフリーサービスなど、地域のニーズに応じた資料・情報の提供
 - ・ サービスと地域の対象者をつなぐための情報提供
 - ・ 福祉分野等の関係機関と図書館との連携強化に資する働きかけの実施
- 移動図書館
 - ・ 各市町村での全域サービス実現に向けた働きかけの実施
 - ・ 図書館未設置自治体への巡回の重点化

高知市全域サービスの拠点

第3期オーテピア高知図書館サービス計画骨子案

概要

- オーテピア高知図書館(本館機能)と6つの分館、15の分室、2台の移動図書館が一体となり、高知市内全域で図書館サービスを展開します。
- 児童生徒の主体的、意欲的な学習活動や読書活動を支えられるように、高知市内の小・中学校、義務教育学校、特別支援学校との連携・協力を強化します。

サービス計画(第2期) 前半R4～R6年度

■ 主な取組

- 各館室の特色や傾向を把握するための地域カルテの作成
- 職員向け基本業務研修、定期訪問や読書会、選書会の実施
- 市学校教育課等と連携した図書館支援員研修や団体貸出等の実施
- 児童サービス担当による、はりまや橋小での出前授業の実施

■ 成果

- 分館・分室、移動図書館の活性化につながった(各館室の強み・弱みの把握、ターゲットに応じた情報の提供)。
- 接遇力や利用サービスが向上した。
- 訪問時に現状を把握し提案や助言を行うことにより、利用者が使いやすい環境を整備できた。
- 学校における読書活動を推進できた(利用登録や団体貸出サービス等の浸透)。

サービス指標

	現状(R6年度)	目標(R8年度)
分館・分室・移動図書館利用者数	268,386人	31万人
分館・分室・移動図書館貸出冊数	1,160,027点	1,363,000点
市内小中学校等への団体貸出点数	6,636点	11,200点

サービスを取り巻く社会環境の変化・地域の課題(問題点)

- ・人口減少や人口構造の変化に加え、施設の老朽化・財政状況悪化により、公共サービスや施設のあり方の見直しが課題となっている。
- ・地域特性を踏まえ、各館室の差別化を意識した特色ある取組が十分にできていない。

図書館の課題(〔ア〕アンケート 〔中〕中間評価 〔意〕意見交換会)

- 地域特性に応じた図書館サービスを分館・分室を核として展開していく必要があるが、施設規模や予算等の制約もあり十分に進んでいない。〔中〕
- 分館・分室の蔵書冊数が増加しており、全体的に計画的な除籍が必要。〔中〕
- GIGAスクールや探究学習の推進などの学校現場のニーズ変化の把握、協力のあり方の再検討ができていない。〔中〕
- 学校教職員向けの団体貸出について、周知不足のため利用が伸び悩んでいる。〔中〕

特にサービスを活用いただきたい方(第3期サービス計画)

すべての高知市民
高知市内小・中学校、義務教育学校、特別支援学校、幼稚園・保育園等及び教職員

3期のポイント

- 地域特性に応じた図書館サービスの展開(魅力ある蔵書構成など)
- 地域団体や関係機関と連携した横断的な取組の強化
- 学校図書館との連携に向けたモデル事業の実施と拡大(図書館支援員及び教職員への研修、出前授業や読み聞かせ等の授業支援など)

3期計画の取組

新 新規 拡 拡大

- ブックリストやパスファインダーの提供
 - ・地域課題やニーズを踏まえたブックリスト等の作成・提供、広報の充実
 - ・本館資料の分館・分室での展示(コテピア)
- 分館・分室・移動図書館の周知
 - ・活性化策などの取組の紹介記事やイベント、SNS等を活用した積極的な広報
 - ・横断的なイベントの実施
- 分館・分室・移動図書館の活性化
 - ・書架や掲示物など、館内の魅力向上に向けた取組の実施
 - ・地域カルテの作成・分析と活性化策の検討によるサービス向上
 - ・市内・県内のサービス事例やノウハウの共有
 - ・場としての文化の創造・発信
 - ・住民参加による図書館づくりの取組の実施
- 学校図書館との連携
 - ・学校図書館との関係強化
 - ・教職員を対象にした図書館サービス研修の実施
 - ・教職員向け団体貸出サービスチラシの作成
 - ・出前授業の実施
- 接遇力の向上
 - ・マニュアルの改訂・周知によるサービスの均一化

概要

○生徒たちが読書を楽しみ、自ら必要な資料・情報を探し活用して学ぶ力を身につけるよう、生徒たちにとって身近な学校図書館と連携・協力して支援を行います。
○カリキュラムや生徒のニーズに対応する資料の収集・提供等により生徒の学びを支えるとともに、教職員等に対する研修や講座等を実施します。

サービス計画（第2期）前半R4～R6年度

■ 主な取組

○ デジタル、グリーン、グローバルの3分野を中心に、教科教育や学校の課題解決に役立つ資料の収集・提供
○ 県高等学校課や県私学・大学支援課との連携・情報共有のもと、県立学校等への訪問を実施
○ 学校のカリキュラムに対応したデータベース活用講座等、情報リテラシー向上に役立つ学習機会の提供

■ 成果

○ 情報教育や国際理解教育、環境教育等の教育活動に即した資料を集中的に提供できるようになった。
○ 各学校、団体、地域で連携の核となる実習助手(学校司書)や教員とのつながりができ、連携・協力関係が深まった。
○ 図書館の有する物的・人的資源を生かした連携・協力の取組の幅が広がった。

サービス指標

団体貸出点数	現状(R6年度) 3,941点	目標(R8年度) 10,000点
--------	--------------------	---------------------

サービスを取り巻く社会環境の変化・地域の課題(問題点)

・県では、少子化に伴う定員割れ解消を目的として、県立高校の再編計画を進めている。
・探究学習などの新たな学習方法や、GIGAスクール構想などデジタル化の進展への対応が求められている。
・学校図書館の機能向上につながる連携・協働が十分にできていない。

図書館の課題（[ア]アンケート [中]中間評価 [意]意見交換会）

○従来の広報だけでは資料の利活用を増やすことは難しく、学校図書館活動の活性化とともに、学校の負担軽減につながるような連携・協力のあり方を提案する必要がある。[中]
○学校図書館の活用促進につながる働きかけが求められる。[中]
○キーパーソンとなる教職員に加えて、大学や地域の教育資源等をも巻き込んだ展開が求められる。[中]

特にサービスを活用いただきたい方(第3期サービス計画)

県立学校図書館・私立学校図書館の職員（学校司書ほか）
県立学校・私立学校教職員（司書教諭・デジタル担当教職員ほか）
高知市立高校図書館及び教職員

3期のポイント

- 学校図書館機能の向上に向けた公共図書館と学校との協働の創出
○ 読書指導に限らず、教育・学習活動での図書館活用に資する資料提供
○ モデル校の取組を生かした公共図書館と学校との連携促進及び研修機会の提供

3期計画の取組

新 新規 拡 拡大

- 拡 ○ 団体貸出・協力レファレンス
・教科教育やデジタル化に対応した資料の収集・提供
・キャリア教育や探究学習に役出す資料の収集・提供
・各学校の実態に応じた図書館活用方法の提案
- 拡 ○ 訪問等による連携・協力
・モデル校の実践事例を踏まえた、連携・協力の課題に係る相談等への対応
- 拡 ○ 情報提供
・電子書籍を含む図書館資料や資料の活用事例の紹介
- 新 ○ 研修への協力
・学校司書等を対象にした、公共図書館と学校の連携促進に関する研修の実施
・オーテピア高知図書館の各部門の専門性を生かした講座の実施
- 新 ○ 連携
・高等学校課、私学・大学支援課、特別支援教育課と連携した学校への広報